

令和元年6月10日現在

機関番号：13601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13496

研究課題名（和文）知的障害のある人への心理療法の適用可能性と課題の探索

研究課題名（英文）Adapting psychological therapies for people with intellectual disabilities

研究代表者

下山 真衣（Shimoyama, Mae）

信州大学・学術研究院教育学系・助教

研究者番号：00609620

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：知的障害のある人のメンタルヘルスの不調の実態について調査するために、日本版PAS-ADDチェックリストを開発し、東京都内の知的障害のある人の関連団体に調査をしたところ、知的障害のある人のメンタルヘルスの不調の発生状況は23.8%で、海外の先行研究における数値と同程度発生していることがわかった。心理療法適用上の課題としては、心理療法に参加する動機づけとしての方法、反応レパートリーの工夫（視覚的なツールの利用、選択肢の提示など）、心理療法自体は体験的な活動を含める、本人の家族や支援者との協力などが整理された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、知的障害のある人に対するメンタルヘルスの不調の心理アセスメントを開発し、国内では実施されていなかった知的障害のある人のメンタルヘルスの不調の発生状況について調査を実施し、その実態を明らかにした。加えて、知的障害のある人に対して心理的な支援を適用する際の課題について、心理アセスメントと心理療法実施時の観点から整理し、必要な工夫について考察した。このことから、知的障害のある人のメンタルヘルスの不調について今後の研究を進める上で、重要な基礎的データを示すことができた。

研究成果の概要（英文）：We developed the PAS-ADD checklist Japanese version, and surveyed related organizations of people with intellectual disabilities in Tokyo for investigating the occurrence of mental health problems. The occurrence of mental health problems in people with disabilities was 23.8%, which was similar results to previous studies in England. When applying psychotherapy to such a population, it is considered necessary to increase motivation for participating in psychotherapy, prepare to response repertoire (use of visual tools, presenting options, etc.), involve experiential activities, and cooperate with the family members.

研究分野：障害児者心理学

キーワード：知的障害者 メンタルヘルスの不調 精神疾患の有病率 PAS-ADDチェックリスト 心理療法適用上の課題

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 知的障害のある人のメンタルヘルスに関するニーズ

知的障害のある人のメンタルヘルスや精神疾患に関するニーズ(不安、うつ、怒りの問題など)に対して、効果的な心理療法を提供することについて、わが国ではほとんど検討されてきていない。ともすれば、知的障害のある人へのカウンセリングや心理療法は適切でないと考えられ、適用の対象者として除外されてしまう(Prout, 2013)。しかしながら、知的障害のある人のメンタルヘルス不調の発生率は、一般の発生率と概ね一致しており(Cooper et al., 2007)、心理療法を受けることへのニーズも同様に存在すると考えられる。

(2) 知的障害のある人のメンタルヘルスの不調へのニーズに対する心理的な支援

これまで知的障害のある人がメンタルヘルスの不調に対して心理療法を受けにくかった理由として、Taylor and Knapp(2013)は、知的障害のある人へのメンタルヘルスに関するアセスメントが十分開発されておらず、診断の見落としがあること、心理療法をおこなうセラピストの消極的な態度、知的障害のある人のメンタルヘルスの不調への心理療法を効果的に適用するエビデンスの不足を挙げている。知的障害のある人への心理療法(カウンセリング、認知行動療法、力動的心理療法)の適用についての研究は、近年欧米を中心に増えつつある(Taylor & Knapp, 2013)。このように、知的障害のある人のメンタルヘルスの不調に対する心理療法は徐々にその有効性について検討され始めているものの、国内では未だ詳細な検討がなされていない現状である。

2. 研究の目的

上述した課題から、本研究において以下3つの目的を設定した。

(1) 知的障害のある人のメンタルヘルスの不調の実態を明らかにする

知的障害のある人のメンタルヘルスの不調の発生状況、関連要因、治療や心理的な支援の状況、について質問紙調査によって実態を明らかにする。

(2) 知的障害のある人への心理療法適用上の課題を明らかにする

知的障害のある人のメンタルヘルスの不調に対する心理アセスメントの開発と適用に関する課題、心理療法の実施・評価の課題について検討する。

(3) 目的(1)(2)について他の研究者が議論するための基本的データを提供する

3. 研究の方法

上述した研究目的を達成するために以下のような方法で実施した。

(1) 知的障害のある人に適応したメンタルヘルスの不調の心理アセスメントとして、日本版 PAS-ADD チェックリストを開発した。

(2) 日本版 PAS-ADD チェックリストを含めた質問紙を用いて、東京都の知的障害に関連する団体にメンタルヘルスの不調に関する調査を実施した。

(3) 知的障害のある人のカウンセリングや心理療法を適用した事例をインタビューや研究会で検討し、適用のための課題について整理した。

4. 研究成果

(1) 日本版 PAS-ADD チェックリストの開発

国内では、知的障害のある人のメンタルヘルスの不調全般についてアセスメントする検査は皆無であったが、日本版 PAS-ADD チェックリストを開発し(下山真衣, 日本版 PAS-ADD チェックリスト, 2016) その信頼性について検討した。信頼係数を算出し、海外の複数の結果と比較したところ、同様の数値であり、日本版 PAS-ADD チェックリストは一定程度信頼性があることが示された。

(2) 国内の知的障害のある人のメンタルヘルスの不調の実態

日本版 PAS-ADD チェックリストと基本情報、治療・支援状況について尋ねる質問紙を作成し、国内の知的障害のある人のメンタルヘルスの不調の実態について明らかにした。国内の知的障害のある人のメンタルヘルスの不調の発生状況は 23.8%で、海外の先行研究における数値と同程度発生していることがわかった。また、関連要因として、性別や心理的苦痛を伴うライフイベントの経験、自閉スペクトラム症の要因がメンタルヘルスの不調のリスクを高めていることが考えられた。また、治療支援状況については海外の先行研究と違い、精神科医の利用が高く、心理士の利用は少ない状況であった。国内では、知的障害のある人のメンタルヘルスの不調の発生状況、関連要因、治療・支援状況についての報告はなかったが、本研究により、国内外に重要な基本的データを発表することができた(Shimoyama M., Iwasa K., & Sonoyama S., The prevalence of mental health problems in adults with intellectual disabilities in Japan, associated factors and mental health service use, Journal of Intellectual Disability Research, vol.62,931-940, 2018, 査読有)

(3) 心理アセスメントと心理療法における適用上の課題

心理アセスメントと心理療法適用上の課題について、実践家にインタビューを実施し、研究会を発足する中で、多くの研究者や実践家と討論を行った。結果として、心理アセスメントについては、軽度知的障害のある人には適用可能であるが、重度知的障害のある人については行動観察などを含め、今後も心理アセスメントを開発する必要があること、スクリーニングだけ

でなく、個別にインタビューするツールも必要であることが指摘された。心理療法適用上の課題としては、心理療法に参加する動機づけとしての方法、反応レパトリーの工夫（視覚的なツールの利用、選択肢の提示など）、心理療法自体は体験的な活動を含める、本人の家族や支援者との協力などが整理された。この内容について、研究会、学会大会シンポジウム等で発表した（下山真衣・竹内康二・岩佐和典・園山繁樹、知的障害のある人のメンタルヘルスと心理療法 - 青年・成人期のメンタルヘルスに関するニーズに応えるために - 、日本心理臨床学会第37回大会、2018；下山真衣・岩佐和典・倉光晃子・倉光晃子・園山繁樹、知的障害のある人のメンタルヘルスと心理療法 - 青年期・成人期のメンタルヘルスに関するニーズに応えるために - 、日本LD学会第26回大会、2017；下山真衣・竹内康二・岩佐和典・田中恒彦・園山繁樹、知的障害のある人のメンタルヘルスと心理療法 - 青年期・成人期のメンタルヘルスに関するニーズに応えるために - 、日本特殊教育学第54回大会、2016）。

（4）今後の課題と展望

知的障害のある人のメンタルヘルスの不調については、スクリーニングツールだけでなく、個別にさらにアセスメントができる心理検査が必要である。心理療法の適用については、本研究で得られた適用上の課題を踏まえ、実際に心理療法を行い、その有効性について検討することが必要である。そして、国内においても知的障害のある人のメンタルヘルスの不調の発生状況は高く、予防的な支援を含め、メンタルヘルスのニーズに応えられる支援を広げる必要がある。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

Shimoyama M., Iwasa K., & Sonoyama S., The prevalence of mental health problems in adults with intellectual disabilities in Japan, associated factors and mental health service use, *Journal of Intellectual Disability Research*, vol.62,931-940, 2018, 査読有
DOI: 10.1111/jir.12515

岩佐和典、知的障害に併存する重篤な精神疾患と、心理療法の役割について、*就実大学大学院教育学研究科紀要*、2巻、7-30、2017、査読無

〔学会発表〕(計3件)

下山真衣・竹内康二・岩佐和典・園山繁樹、知的障害のある人のメンタルヘルスと心理療法 - 青年・成人期のメンタルヘルスに関するニーズに応えるために - 、日本心理臨床学会第37回大会、2018

下山真衣・岩佐和典・倉光晃子・倉光晃子・園山繁樹、知的障害のある人のメンタルヘルスと心理療法 - 青年期・成人期のメンタルヘルスに関するニーズに応えるために - 、日本LD学会第26回大会、2017

下山真衣・竹内康二・岩佐和典・田中恒彦・園山繁樹、知的障害のある人のメンタルヘルスと心理療法 - 青年期・成人期のメンタルヘルスに関するニーズに応えるために - 、日本特殊教育学第54回大会、2016

〔図書〕(計2件)

下山真衣、北大路書房、*障害者心理学*、2017、pp111-116

下山真衣、藤井印刷所、*日本版 PAS-ADD チェックリスト*、2016、8頁

6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：岩佐 和典

ローマ字氏名：(IWASA, Kazunori)

所属研究機関名：就実大学

部局名：教育学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：00610031

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。